

平成25年

県の施策に関する県民意識調査結果報告書

【目次】

調査の概要・調査結果の概要	1
調査項目一覧	16
居住地(広域振興圏)別集計結果	17
統計表	121
調査票	139

平成25年5月

岩手県政策地域部

はじめに～本書をお読み頂くにあたって～

1 県民意識調査について

岩手県では、「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定し、東日本大震災津波からの復旧・復興への取り組みを進めるとともに、これと軌を一にしながら、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を描いた「いわて県民計画」に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けて、計画を推進しています。

県では、「いわて県民計画」の政策に関連する項目について、県民の皆様がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を定期的に把握するため、平成12年度から「県民意識調査」を実施しており、今回(平成25年調査)が11回目の調査となります。

2 今回の調査の特徴

今回の調査では、「いわて県民計画」の7つの政策に関連する項目の満足度、重要度等の把握を目的とし、その調査項目数は、55項目となっています。

3 調査対象数の配分方法

本調査の調査対象者の抽出については、広域振興圏での調査結果の利用を考慮し、次のような方法によって行いました。

- ・ 広域振興圏における調査結果に一定の精度を確保するため、東日本大震災津波の影響や管内人口の多寡を考慮し、全県の調査数5,000について、県央及び県南に300、沿岸に800、県北に600の計2,000を定数配分として割り振り、残り3,000を4広域振興圏の管内人口比で比例配分しています。
- ・ 市町村別の調査対象数については、各広域振興圏に割り振られた調査対象数を、管内の市町村人口によって比例配分しています。

このように、調査対象(サンプル)は実際の地域別の人口構成比のとおり割り振られていないことから、集計については、実際の市町村別の人口構成比を反映した結果となる集計方法を取っています。詳しくは、「4 集計方法」を参照してください。

4 集計方法

前述の「3 調査対象数の配分方法」のとおり、広域振興圏での調査結果の利用を考慮し、調査対象数を地域別の人口構成比で割り振っていないことから、単純に集計された県全体等の調査結果は、本県の広域振興圏の人口構成比を反映していないものになります。

したがって、集計については、実際の回答数に広域振興圏(市町村)別の人口構成比を考慮することによって、県全体の調査結果を実勢に近づける集計(母集団拡大集計)を行っています。

これを具体的に説明すると、市町村別の回答数(選択肢ごと)に、「平成24年人口移動報告年報による市町村別20歳以上人口÷市町村別の標本数(有効回答数)」で求められるウェイトを乗じて集計するものです。(したがって、集計結果の分母は20歳以上人口に一致します。)

5 その他

- ・ 居住地(広域振興圏)別集計結果(問2)のグラフには、「わからない」「不明」の比率数値は表示していません。
- ・ 四捨五入の関係で合計と内訳の計とが一致しない場合があります。

調査の概要
調査結果の概要

■調査の概要■

1 調査の目的

「いわて県民計画」に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているかを把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすることを目的とする。

2 調査の概要

- ① 調査対象 県内に居住する20歳以上の男女
- ② 調査対象者数 5,000人
- ③ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ④ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑤ 調査時期 平成25年1～2月
- ⑥ 調査項目
 - ア 生活全般の満足度
 - イ 「いわて県民計画」の7つの政策に関連する・46項目に係る重要度、満足度について
 - ウ 県民の普段の行動について（災害への備え等）
 - エ 「いわて県民計画」の進め方等についての意見（「人口」と「ゆたかさ」）
- ⑦ 有効回収率 67.7%（3,385人／5,000人）
※回答のあった3,477人のうち、居住地不明の92人を除いたもの。
- ⑧ 回答者の属性

【男女別】	
男性	1,498 (44.3)
女性	1,873 (55.3)
不明	14 (0.4)

【居住地別】	
県央広域振興圏	981 (29.0)
県南広域振興圏	998 (29.5)
沿岸広域振興圏	832 (24.5)
県北広域振興圏	574 (17.0)

【年齢別】	
20～29歳	222 (6.6)
30～39歳	380 (11.2)
40～49歳	502 (14.8)
50～59歳	662 (19.6)
60～69歳	775 (22.9)
70歳以上	835 (24.7)
不明	9 (0.3)

【職業別】	
自営業主	368 (10.9)
家族従業者	138 (4.1)
会社・団体役員	606 (17.9)
常用雇用者	465 (13.7)
臨時雇用者	430 (12.7)
学生	39 (1.2)
専業主婦(主夫)	410 (12.1)
無職	823 (24.3)
その他	43 (1.3)
不明	63 (1.9)

()内は%

3 用語の解説

- 重要度(平均) 「重要」を5点、「やや重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要でない」を2点、「重要でない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。
- 満足度(平均) 「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。
- ニーズ度： 重要度(平均)－満足度(平均)

4 その他

本調査結果は、下記の調査統計課ホームページからダウンロードできます。

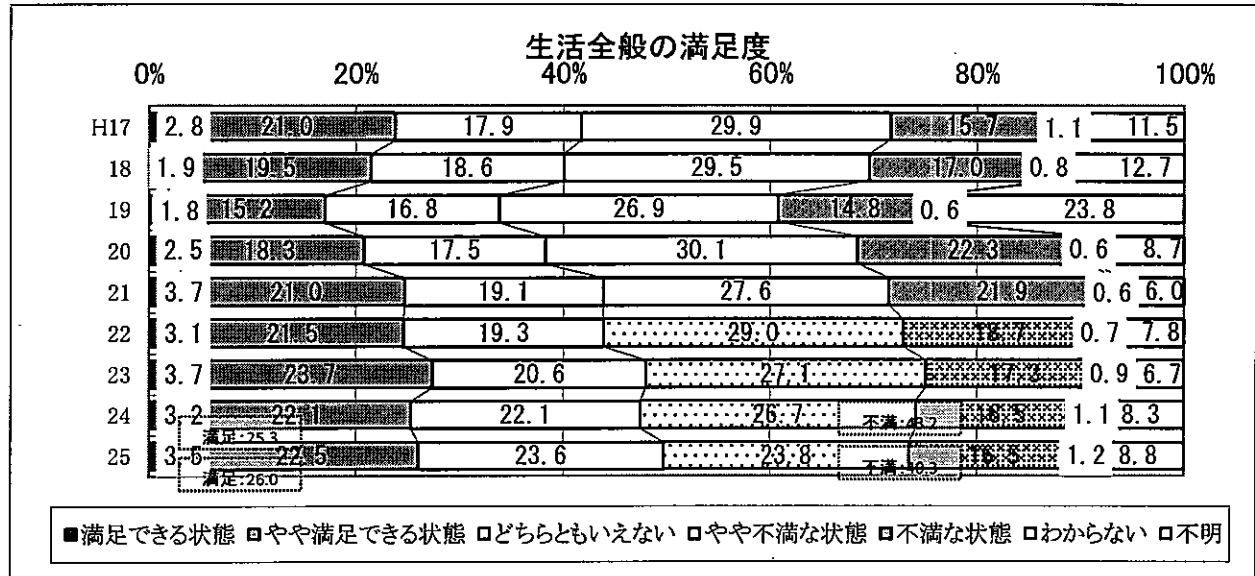
<http://www3.pref.iwate.jp/webdb/view/outside/s14Tokei/top.html>



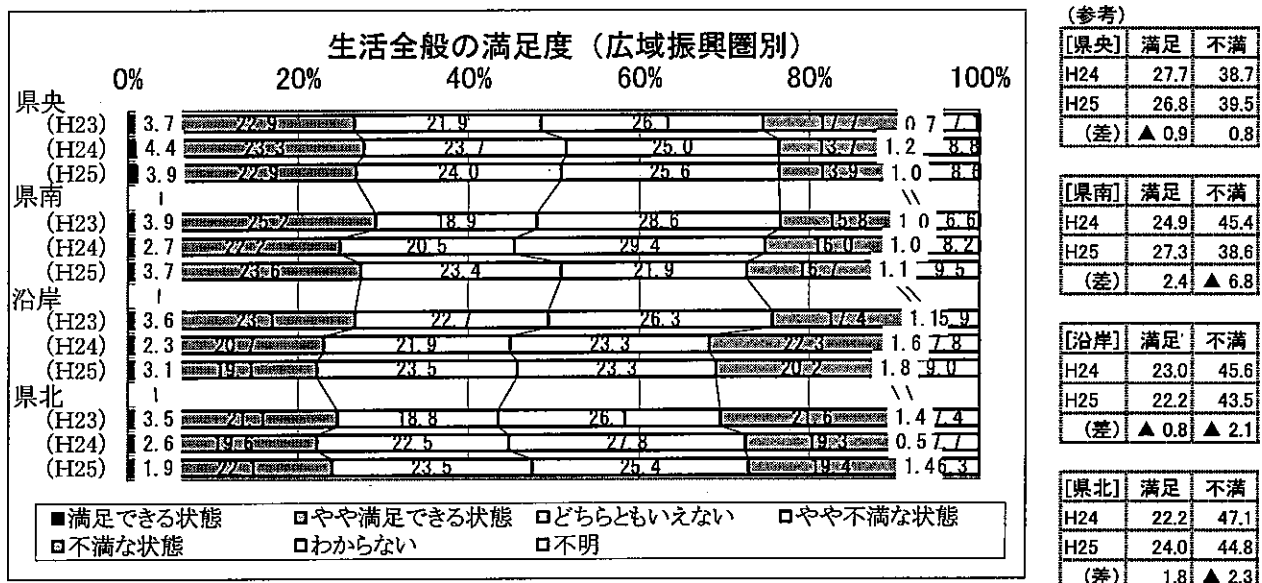
■調査結果の概要■

問1 あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

- 回答の割合を見ると、不満と回答した人の割合(40.3%)が、満足と回答した人の割合(26.0%)に比べて高くなっている。
 ※ 満足と回答した人：「満足できる状態」「やや満足できる状態」と回答した人の計
 ※ 不満と回答した人：「不満な状態」「やや不満な状態」と回答した人の計
- 前回(平成24年)調査と比較すると、不満と回答した人の割合(前回:43.2%)は2.9ポイント低くなり、満足と回答した人の割合(前回:25.3%)は、0.7ポイント高くなっている。



- 広域振興圏別に見ると、県南及び県北で、満足と回答した人の割合は増加(県南:2.4ポイント増、県北:1.8ポイント増)しており、不満と回答した人の割合は低下(県南:6.8ポイント減、県北:2.3ポイント減)している。
- 一方、県央では満足と回答した人の割合が低下(0.9ポイント減)しており、不満と回答した人の割合が増加(0.8ポイント増)している。
- また、沿岸では、満足と回答した人及び不満と回答した人の割合が共に低下(満足:0.8ポイント減、不満:2.1ポイント減)している。(どちらともいえないと回答した人の割合は増加している。)



問2 あなたの暮らしにとって、調査項目のような状態を実現することが、どれくらい重要と考えますか。

あなたの現在の暮らしからみて、調査項目の状態についてどれくらい満足していますか。

【重要度】

- 重要度の高い項目は、「適切な医療体制」、「交通事故の少ない社会づくり」、「高齢者や障がい者に安心な地域づくり」となっている。
- 一方、「海外での県産品の販路拡大」、「外国人も暮らしやすい地域社会」、「県出身スポーツ選手の活躍」などの項目の重要度が低くなっている。

重要度が高い項目

順位	重要度	項目
1	1	③ 14 適切な医療体制
2	7	④ 20 交通事故の少ない社会づくり
3	4	③ 17 高齢者や障がい者に安心な地域づくり
4	2	⑦ 42 災害に強く安心して暮らせる県土
5	6	④ 19 犯罪への不安の少ない社会づくり

重要度が低い項目

順位	重要度	項目
46	45	① 7 海外での県産品の販路拡大
45	44	⑤ 36 外国人も暮らしやすい地域社会
44	43	⑤ 37 県出身スポーツ選手の活躍
43	42	⑤ 35 地域や学校での文化芸術活動
42	41	④ 24 市民活動へ参加しやすい社会

※項目は設問文を要約して記載している。(以下、同様)

【満足度】

- 満足度の高い項目は、「ごみ減量やリサイクルの定着」、「地域や学校での文化芸術活動」、「犯罪への不安の少ない社会づくり」となっている。
- 一方、「安定した就職環境」、「商店街のにぎわい」、「農林水産業の担い手確保」に関する項目の満足度が低くなっている。

満足度が高い項目

順位	満足度	項目
1	1	⑥ 39 ごみ減量やリサイクルの定着
2	2	⑤ 35 地域や学校での文化芸術活動
3	3	④ 19 犯罪への不安の少ない社会づくり
4	4	⑦ 46 通信ネットワークの活用
5	7	⑤ 37 県出身スポーツ選手の活躍

満足度が低い項目

順位	満足度	項目
46	45	① 8 安定した就職環境
45	43	① 5 商店街のにぎわい
44	44	② 9 農林水産業の担い手確保
43	42	① 1 県内経済の活性化
42	41	① 2 次世代を担う産業人材育成

【ニーズ度】

- ニーズ度(重要度－満足度)が高い項目は、「安定した就職環境」、「高齢者や障がい者に安心な地域づくり」、「災害に強く安心して暮らせる県土」となっている。
- 一方、「地域や学校での文化芸術活動」、「県出身スポーツ選手の活躍」、「外国人も暮らしやすい地域社会」などのニーズ度が低くなっている。

ニーズ度が高い項目

順位	ニーズ度	項目
1	1	① 8 安定した就職環境
2	3	③ 17 高齢者や障がい者に安心な地域づくり
3	2	⑦ 42 災害に強く安心して暮らせる県土
4	5	③ 16 安心な子育て環境整備
5	6	① 5 商店街のにぎわい

ニーズ度が低い項目

順位	ニーズ度	項目
46	45	⑤ 35 地域や学校での文化芸術活動
45	43	⑤ 37 県出身スポーツ選手の活躍
44	44	⑤ 36 外国人も暮らしやすい地域社会
43	42	④ 24 市民活動へ参加しやすい社会
42	40	⑦ 46 通信ネットワークの活用

7つの政策

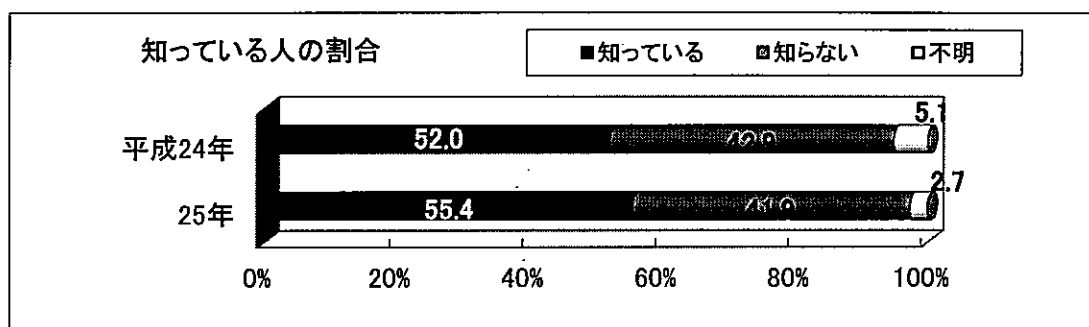
- ①:産業・雇用～「産業創造県いわて」の実現～
- ②:農林水産業～「食と緑の創造県いわて」の実現～
- ③:医療・子育て・福祉～「共に生きるいわて」の実現～
- ④:安全・安心～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
- ⑤:教育・文化～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
- ⑥:環境～「環境王国いわて」の実現～
- ⑦:社会資本・公共交通・情報基盤～「いわてを支える基盤」の実現～

問3－1 大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について

大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っていますか

役割分担について知っている人は5割強

- 大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っている人の割合は55.4%となっている。

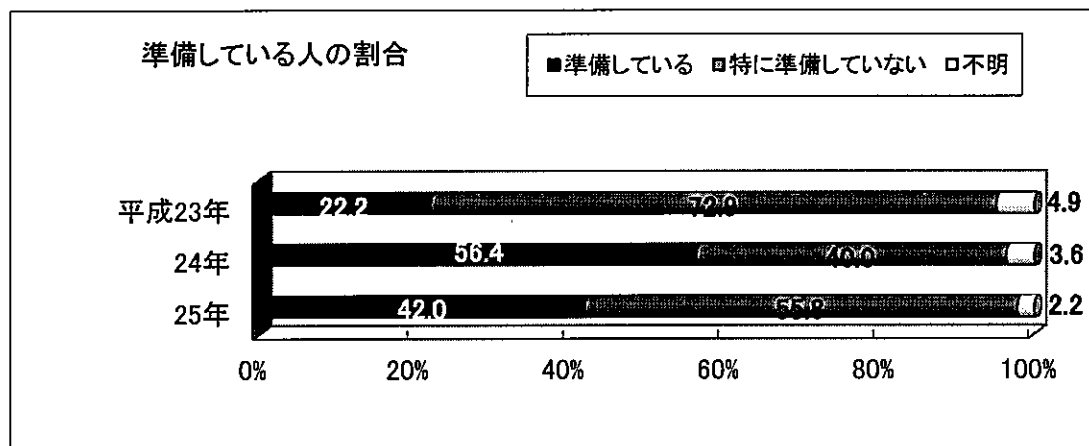


問3－2 災害への対応について

普段から災害に備え、何らかの準備をしていますか

4割強の人が災害に備えた何らかの準備を行っている

- 普段から災害に備え、何らかの準備をしている人の割合は42.0%となっている。



注：平成23年は東日本大震災津波発生前に調査を実施。

準備している場合

○ 準備している内容は、「家族分の食料や水、懐中電灯などの非常持出品を常に確保している」が82.2%で最も多く、「家具などの転倒防止措置を行っている」が46.8%、「家族で、自分の住む地域の避難場所・避難路や危険箇所などを実際に歩いて確認している」が38.0%などとなっている。

③家族分の食料や水、懐中電灯などの非常持出品を常に確保している

⑥家具などの転倒防止措置を行っている

①家族で、自分の住む地域の避難場所・避難路や危険箇所などを実際に歩いて確認している

④家族で年1回以上、災害が起きた場合の具体的対応（連絡方法、集合場所）などを話し合っている

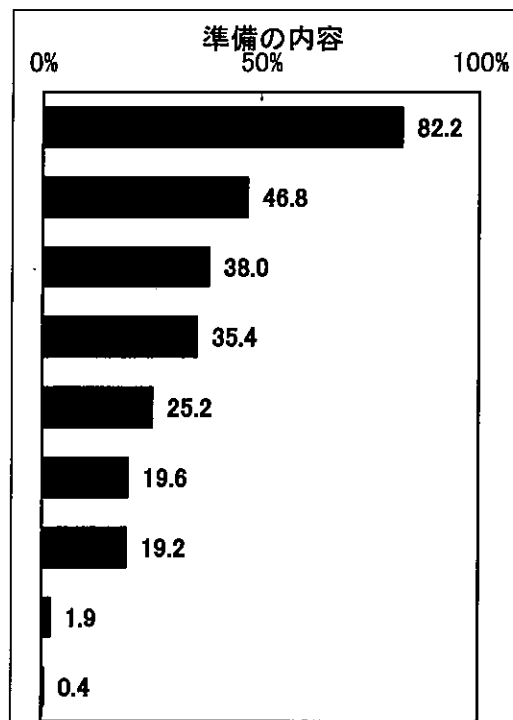
②地域で実施される防災訓練に年1回以上参加している

⑦自分が住む住宅の耐震化について措置を行っている

⑤地域の自主防災組織に加入している

⑧その他

不明



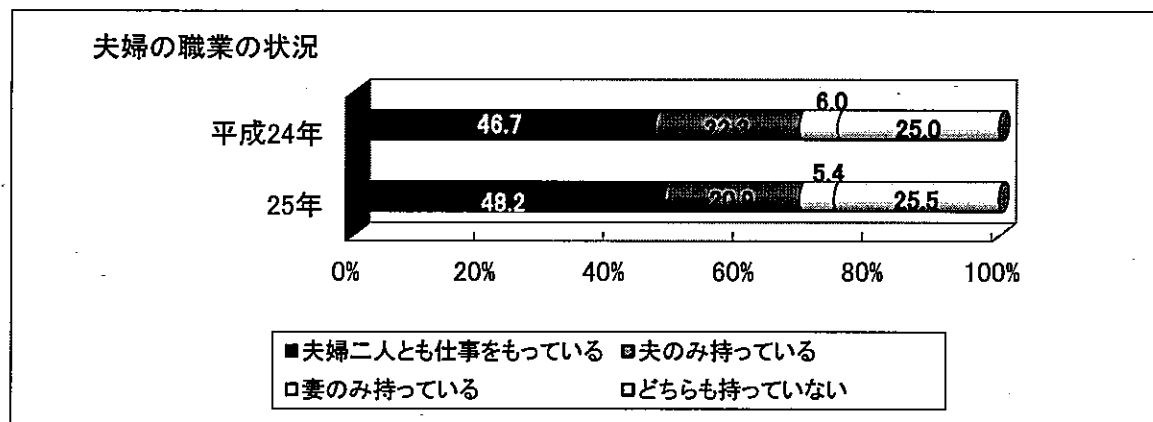
問3-3 家事関連時間について

夫婦世帯の方のみ

お二人とも職業をお持ちですか

夫婦二人とも仕事をもっている世帯は5割弱

○ 夫婦世帯で二人とも仕事をもっている人の割合は48.2%となっている。



あなたとあなたの夫(妻)は、普段、どれぐらい家事を行っていますか

①夫婦二人とも仕事をもっている世帯

- 共働き世帯の「夫」の家事労働時間は100分、「妻」の家事労働時間は301分となっており、「夫」の家事労働時間は「妻」の33.2%となっている。
- 妻の1日の家事労働時間で最も長い時間を費やしているのは「食事の用意・後片付け」であり、次いで「掃除・洗濯」及び「育児」の順となっている。

平成25年全体

①食事の用意・後片付け

②掃除・洗濯

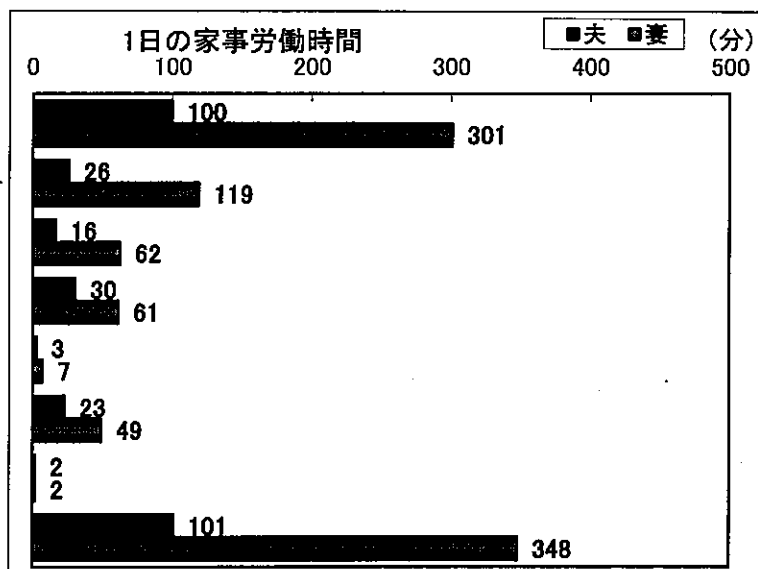
③育児

④介護・看護

⑤買い物

⑥その他

(参考)平成24年全体



②夫のみ仕事を持っている世帯

- 夫のみ仕事を持っている世帯の「夫」の家事労働時間は90分、「妻」の家事労働時間は418分となっており、「夫」の家事労働時間は「妻」の21.5%となっている。
- 妻の1日の家事労働時間で最も長い時間を費やしているのは「食事の用意・後片付け」であり、次いで「育児」、「掃除・洗濯」の順となっている。

平成25年全体

①食事の用意・後片付け

②掃除・洗濯

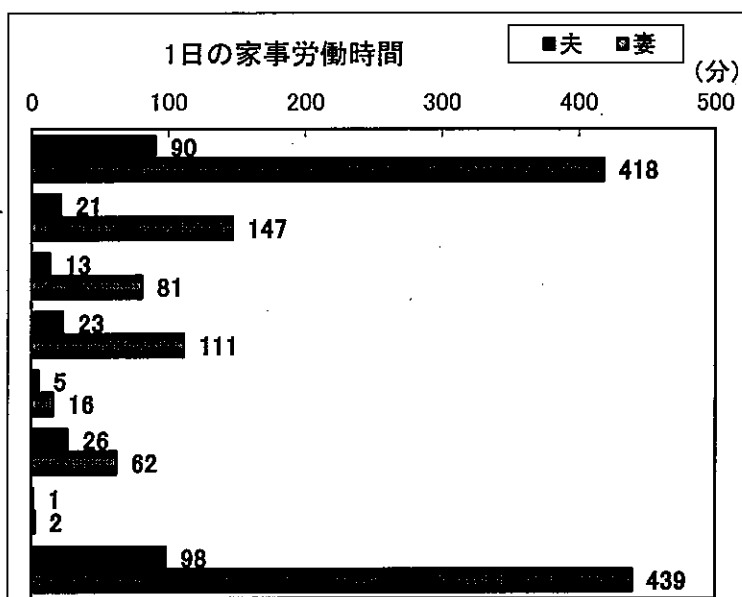
③育児

④介護・看護

⑤買い物

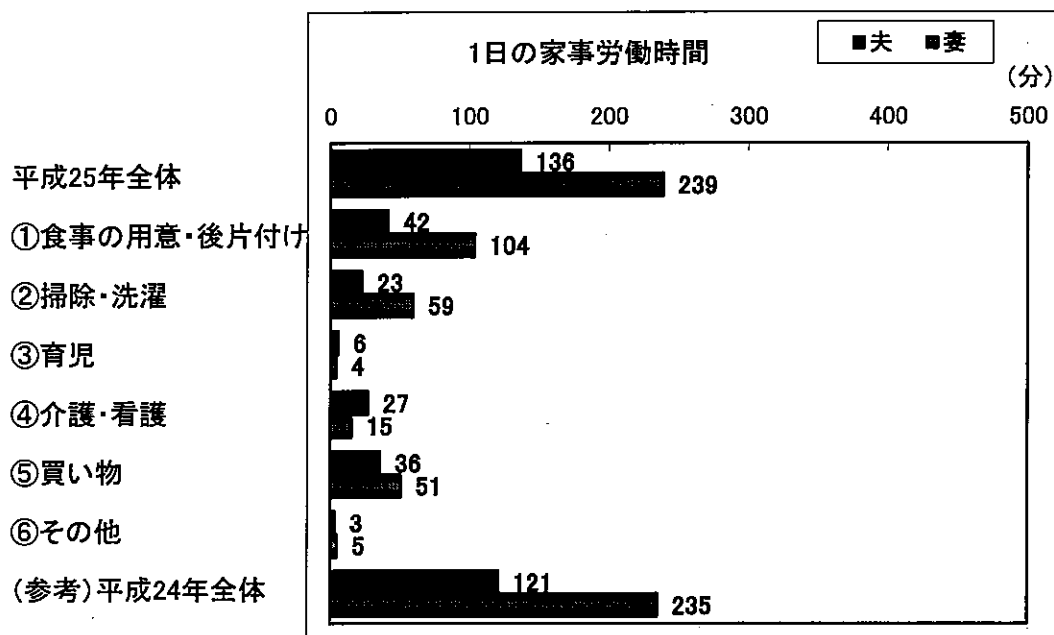
⑥その他

(参考)平成24年全体



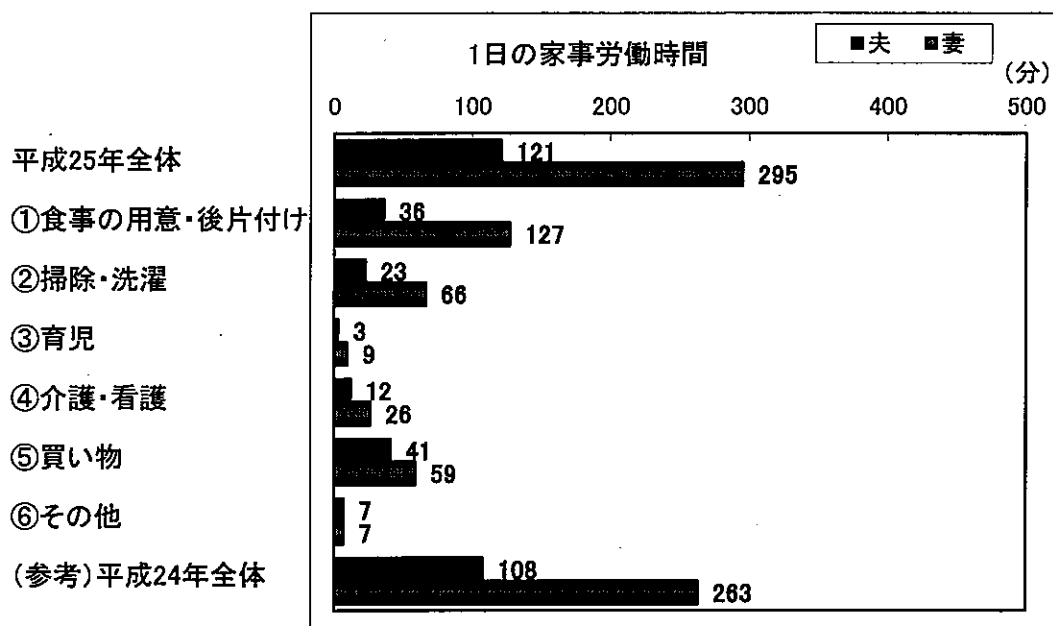
③妻のみ仕事を持っている世帯

- 妻のみ仕事を持っている世帯の「夫」の家事労働時間は136分、「妻」の家事労働時間は239分となっており、「夫」の家事労働時間は「妻」の56.9%となっている。
- 妻の1日の家事労働時間で最も長い時間を費やしているのは「食事の用意・後片付け」であり、次いで「掃除・洗濯」、「買い物」の順となっている。



④二人とも仕事を持っていない世帯

- 二人とも仕事を持っていない世帯の「夫」の家事労働時間は121分、「妻」の家事労働時間は295分となっており、「夫」の家事労働時間は「妻」の41.0%となっている。
- 妻の1日の家事労働時間で最も長い時間を費やしているのは「食事の用意・後片付け」であり、次いで「掃除・洗濯」、「買い物」の順となっている。

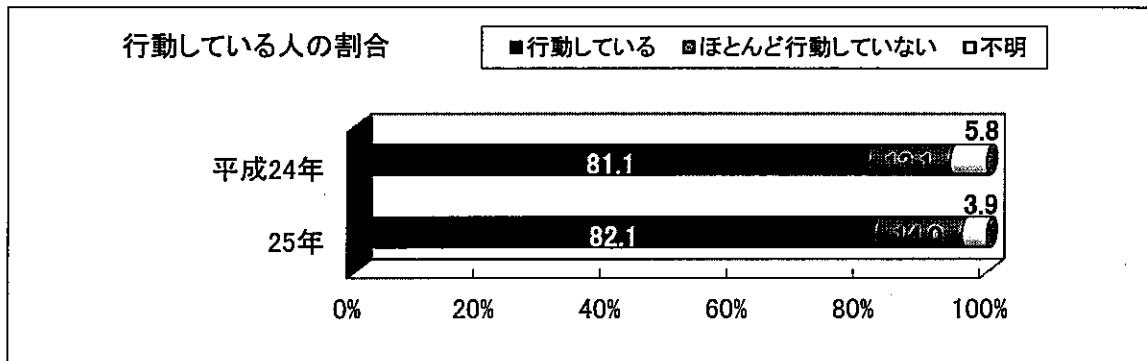


問3-4 地球温暖化防止への対応について

地球温暖化防止のため、普段どのような行動に努めていますか

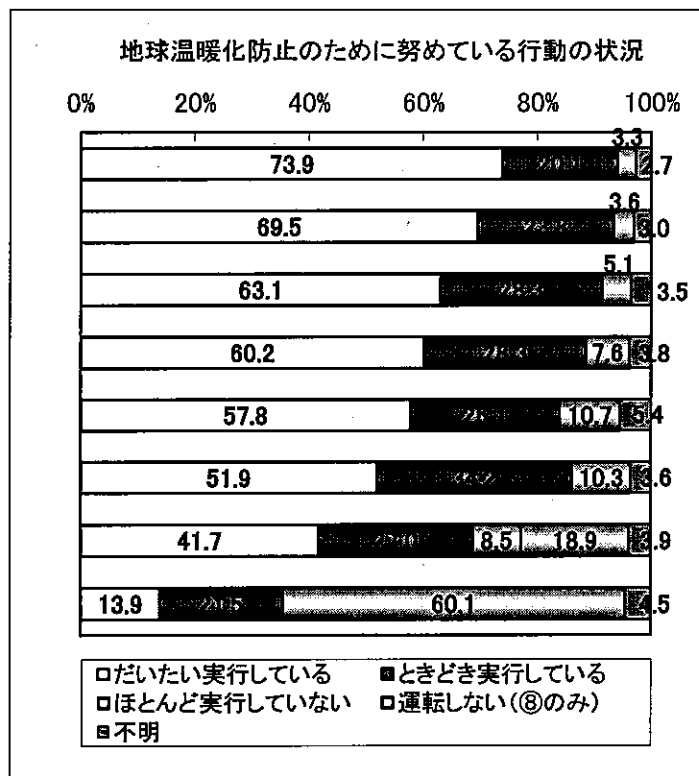
地球温暖化防止のための行動に努めている人は8割強

○ 地球温暖化防止のための行動に努めている人の割合は、各調査項目の平均で82.1%となっている。



○ 行動の内容は、「不要なときはテレビや照明などのスイッチを切る」が94.0%と最も多く、次いで「食事は残さず食べるなど生ごみを減らす」が93.3%、「詰め替え用洗剤や古紙を再利用した紙製品など環境に配慮した商品を利用する」が91.4%となっている。

- ② 不要なときはテレビや照明などのスイッチを切る
- ③ 食事は残さず食べるなど生ごみを減らす
- ⑤ 詰め替え用洗剤や古紙を再利用した紙製品など環境に配慮した商品を利用する
- ④ 火力調整を行うなど省エネを心がけて調理する
- ① 冷暖房時の室温は適切な温度に設定している(冷房時28℃以上、暖房時20℃以下)
- ⑥ 洗顔や食器洗いのときに水を流したままにしない
- ⑧ 自動車を運転するときに、少しゆるやかな発進や、加減速の少ない運転など燃費向上を心がけている
- ⑦ 外出はできるだけ自動車の利用を控え、自転車や公共交通機関を利用する

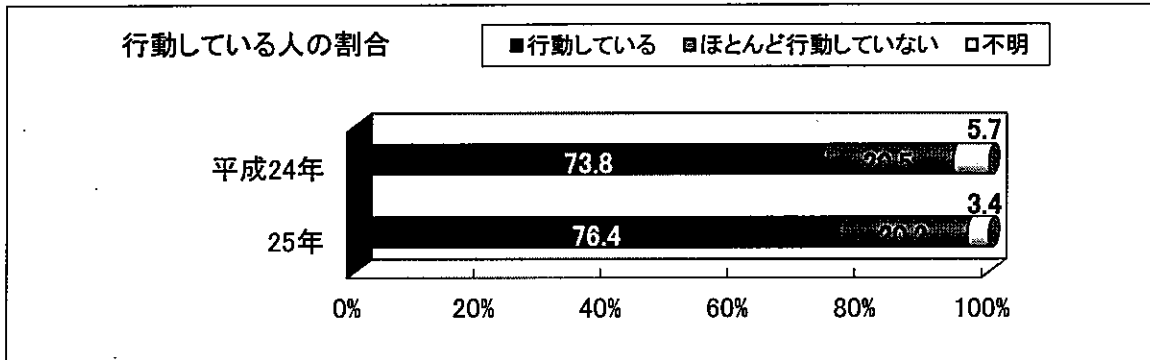


問3-5 ごみの減量化への対応について

ごみの減量化などのため、普段どのような行動に努めていますか

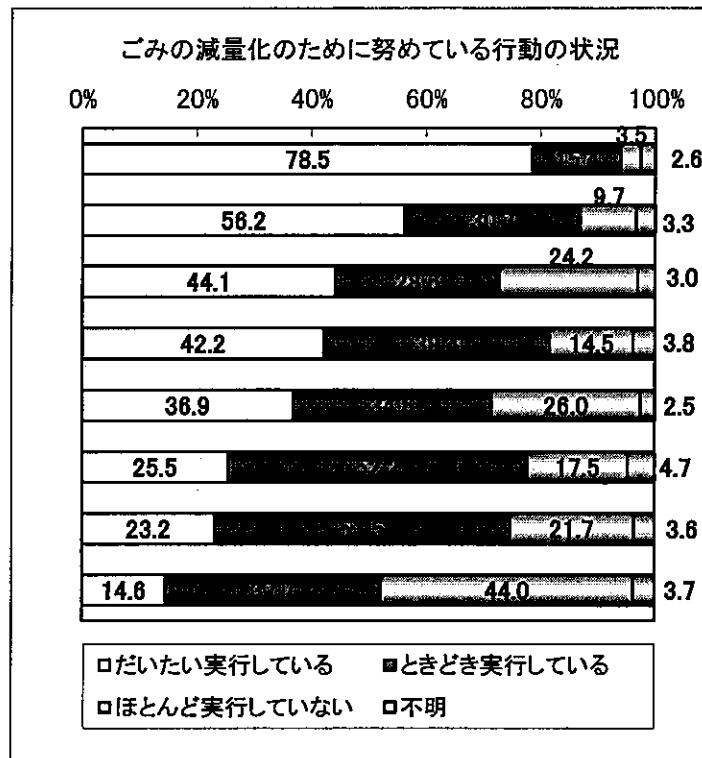
ごみの減量化などのための行動に努めている人は8割弱

- ごみの減量化などのための行動に努めている人の割合は、各調査項目の平均で76.4%となっている。



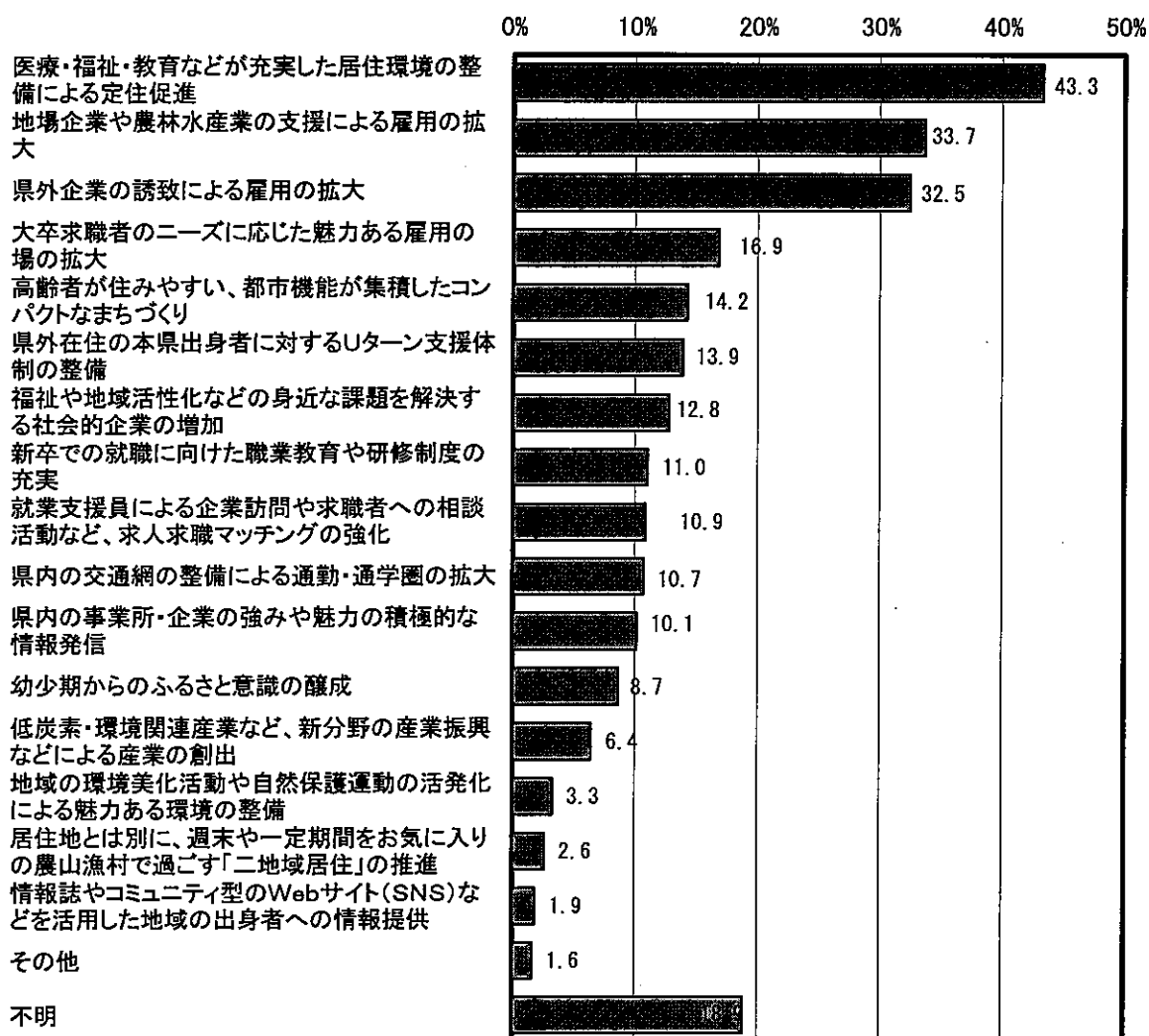
- 行動の内容は、「リサイクルやごみの分別収集に協力している(例えば、古紙、ビン、カン、牛乳パック、発泡トレイ、ペットボトル)」が93.9%と最も多く、次いで「リターナブル容器(繰り返し使用される容器)や詰め替え商品を利用している」が86.9%、「コンポストなどにより生ごみを再資源化したり、水切りネットを使用して、生ごみの量を減らしている」が72.7%となっている。

- ⑧リサイクルやごみの分別収集に協力している(例えば、古紙、ビン、カン、牛乳パック、発泡トレイ、ペットボトル)
 ⑥リターナブル容器(繰り返し使用される容器)や詰め替え商品を利用している
 ③コンポストなどにより生ごみを再資源化したり、水切りネットを使用して、生ごみの量を減らしている
 ②過剰な包装を断ったり、簡易な包装の商品を選んでいる
 ①買い物のときは買い物袋(マイバッグ)を持参し、レジ袋は辞退している
 ⑤使い捨て商品の購入を控えている
 ④再生品(リサイクル商品)を積極的に購入している
 ⑦リサイクルショップを利用している



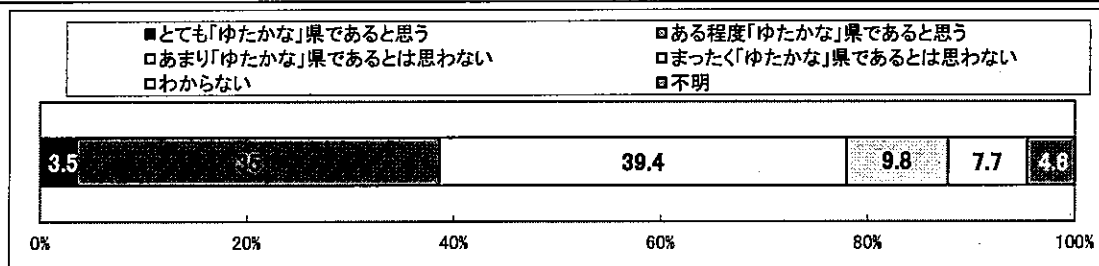
問4-1 社会減を減らすため、県は今後どのような政策を進めていくべきだと思いますか。(3つまで)

- 「社会減」を減らすために特に重要と思われる政策は「医療・福祉・教育などが充実した居住環境の整備による定住促進」の割合が最も多く、次いで「地場企業や農林水産業の支援による雇用の拡大」、「県外企業の誘致による雇用の拡大」などの割合が高くなっている。



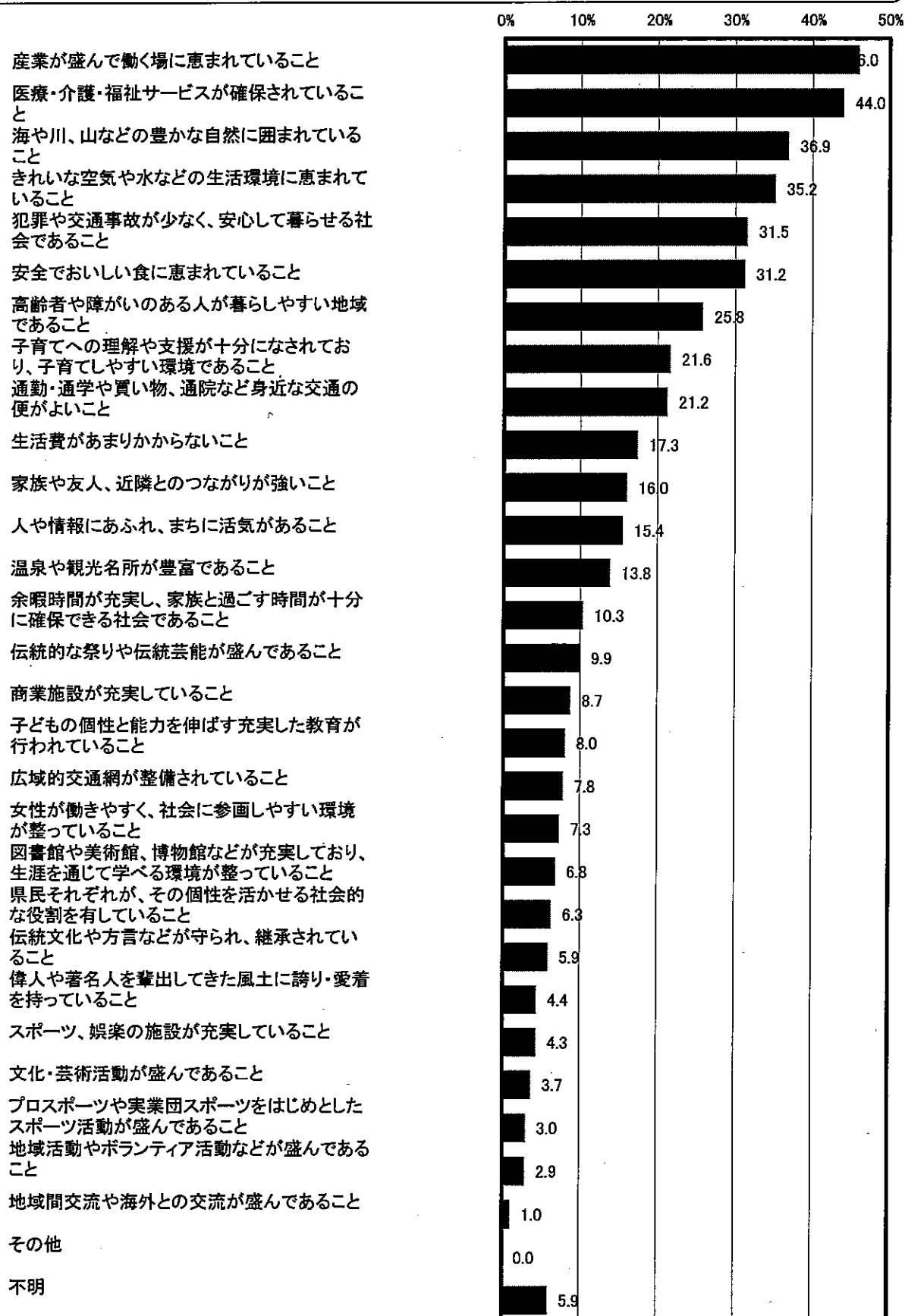
問4-2(1) あなたは、岩手県を経済的な観点だけでなく様々な観点から総合的に見た場合、「ゆたかな」県であると思いますか。

- 回答の割合を見ると、「あまり『ゆたかな』県であるとは思わない」「まったく『ゆたかな』県であるとは思わない」割合(49.2%)が、「とても『ゆたかな』県であると思う」「ある程度『ゆたかな』県であると思う」割合(38.6%)に比べて高くなっている。

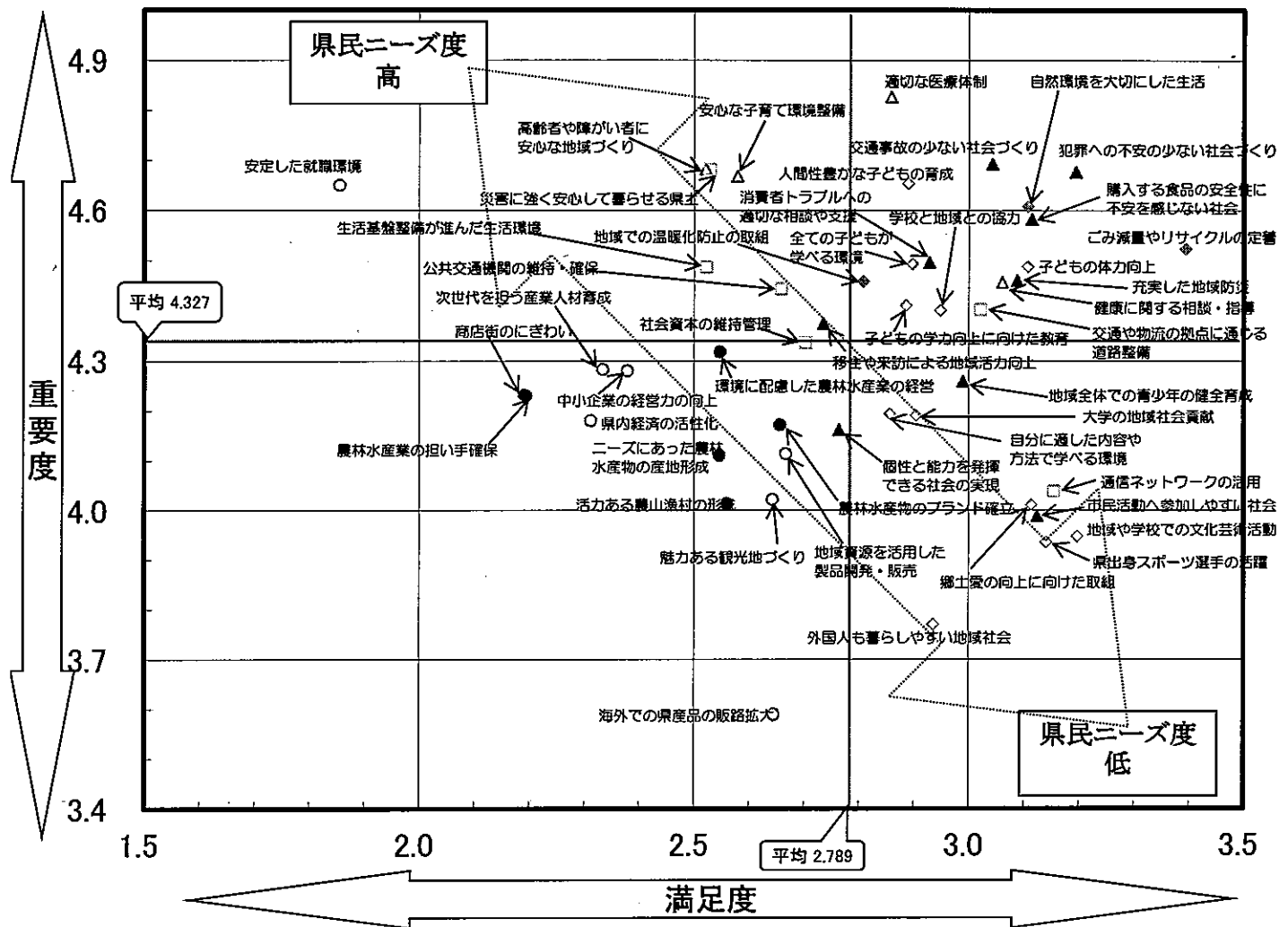


問4-2(2)「ゆたかな」県であるには、どのような要素を満たすことが重要だと思いますか。(5つまで)

○「ゆたかな」県であるために重要と思われる要素は、「産業が盛んで働く場に恵まれていること」の割合が最も多く、次いで「医療・介護・福祉サービスが確保されていること」、「海や川、山などの豊かな自然に囲まれていること」などの割合が高くなっている。



(参考図) 問2の項目別の重要度と満足度の関係



※ ————— は各項目の平均値(重要度:4.327、満足度:2.789)

凡 例

- : ①産業・雇用～「産業創造県いわて」の実現～
- : ②農林水産業～「食と緑の創造県いわて」の実現～
- △: ③医療・子育て・福祉～「共に生きるいわて」の実現～
- ▲: ④安全・安心～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～
- ◇: ⑤教育・文化～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～
- ◆: ⑥環境～「環境王国いわて」の実現～
- : ⑦社会資本・公共交通・情報基盤～「いわてを支える基盤」の実現～

【ニーズ度の高い順】(ニーズ度=(重要度-満足度))

順位	項 目	ニーズ度	順位	項 目	ニーズ度	順位	項 目	ニーズ度
1	安定した就職環境	2.796	16	交通事故の少ない社会づくり	1.650	31	健康に関する相談・指導	1.396
2	高齢者や障がい者に安心な地域づくり	2.162	17	移住や来訪による地域活力向上	1.639	32	交通や物流の拠点に通じる道路整備	1.382
3	災害に強く安心して暮らせる県土	2.154	18	社会資本の維持管理	1.634	33	子どもの体力向上	1.381
4	安心な子育て環境整備	2.090	19	全ての子どもが学べる環境	1.597	34	魅力ある観光地づくり	1.380
5	商店街のにぎわい	2.042	20	消費者トラブルへの適切な相談や支援	1.568	35	充実した地域防災	1.373
6	農林水産業の担い手確保	2.037	21	ニーズにあった農林水産物の産地形成	1.565	36	自分に適した内容や方法で学べる環境	1.340
7	適切な医療体制	1.969	22	子どもの学力向上に向けた教育	1.524	37	大学の地域社会貢献	1.287
8	生活基盤整備が進んだ生活環境	1.965	23	農林水産物のブランド確立	1.516	38	地域全体での青少年の健全育成	1.271
9	次世代を担う産業人材育成	1.950	24	自然環境を大切にしたい生活	1.501	39	ごみ減量やリサイクルの定着	1.131
10	中小企業の経営力の向上	1.903	25	犯罪への不安の少ない社会づくり	1.483	40	海外での県産品の販路拡大	0.946
11	県内経済の活性化	1.869	26	購入する食品の安全性に不安を感じない社会	1.468	41	郷土愛の向上に向けた取組	0.897
12	公共交通機関の維持・確保	1.785	27	活力ある農山漁村の形成	1.455	42	通信ネットワークの活用	0.884
13	環境に配慮した農林水産業の経営	1.771	28	学校と地域との協力	1.452	43	市民活動へ参加しやすい社会	0.865
14	人間性豊かな子どもの育成	1.765	29	地域資源を活用した製品開発・販売	1.448	44	外国人も暮らしやすい地域社会	0.836
15	地域での温暖化防止の取組	1.651	30	個性と能力を発揮できる社会の実現	1.398	45	県出身スポーツ選手の活躍	0.795
						46	地域や学校での文化芸術活動	0.750

(参考)問2の各調査項目一覧(満足度、重要度、ニーズ度得点)

7つの政策	No.	項目	重要度	満足度	ニーズ度
①産業・雇用～「産業創造県いわて」の実現～	1	県内経済の活性化	4.181	2.312	1.869
	2	次世代を担う産業人材育成	4.284	2.334	1.950
	3	地域資源を活用した製品開発・販売	4.115	2.667	1.448
	4	魅力ある観光地づくり	4.022	2.643	1.380
	5	商店街のにぎわい	4.233	2.191	2.042
	6	中小企業の経営力の向上	4.281	2.378	1.903
	7	海外での県産品の販路拡大	3.591	2.645	0.946
	8	安定した就職環境	4.651	1.855	2.796
②農林水産業～「食と緑の創造県いわて」の実現～	9	農林水産業の担い手確保	4.232	2.194	2.037
	10	ニーズにあった農林水産物の産地形成	4.111	2.546	1.565
	11	農林水産物のブランド確立	4.172	2.656	1.516
	12	活力ある農山漁村の形成	4.014	2.560	1.455
	13	環境に配慮した農林水産業の経営	4.318	2.547	1.771
③医療・子育て・福祉～「共に生きるいわて」の実現～	14	適切な医療体制	4.828	2.859	1.969
	15	健康に関する相談・指導	4.457	3.061	1.396
	16	安心な子育て環境整備	4.669	2.579	2.090
	17	高齢者や障がい者に安心な地域づくり	4.683	2.521	2.162
④安全・安心～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～	18	充実した地域防災	4.461	3.088	1.373
	19	犯罪への不安の少ない社会づくり	4.677	3.194	1.483
	20	交通事故の少ない社会づくり	4.693	3.043	1.650
	21	消費者トラブルへの適切な相談や支援	4.497	2.929	1.568
	22	購入する食品の安全性に不安を感じない社会	4.583	3.115	1.468
	23	移住や来訪による地域活力向上	4.375	2.735	1.639
	24	市民活動へ参加しやすい社会	3.989	3.125	0.865
	25	地域全体での青少年の健全育成	4.260	2.989	1.271
	26	個性と能力を発揮できる社会の実現	4.162	2.764	1.398
	27	学校と地域との協力	4.400	2.949	1.452
⑤教育・文化～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～	28	子どもの学力向上に向けた教育	4.411	2.887	1.524
	29	人間性豊かな子どもの育成	4.654	2.889	1.765
	30	子どもの体力向上	4.488	3.107	1.381
	31	全ての子どもが学べる環境	4.494	2.897	1.597
	32	自分に適した内容や方法で学べる環境	4.196	2.856	1.340
	33	大学の地域社会貢献	4.192	2.905	1.287
	34	郷土愛の向上に向けた取組	4.011	3.114	0.897
	35	地域や学校での文化芸術活動	3.948	3.198	0.750
	36	外国人も暮らしやすい地域社会	3.771	2.935	0.836
	37	県出身スポーツ選手の活躍	3.936	3.141	0.795
⑥環境～「環境王国いわて」の実現～	38	地域での温暖化防止の取組	4.459	2.808	1.651
	39	ごみ減量やリサイクルの定着	4.525	3.394	1.131
	40	自然環境を大切に生活	4.609	3.108	1.501
⑦社会資本・公共交通・情報基盤～「いわてを支える基盤」の実現～	41	交通や物流の拠点に通じる道路整備	4.403	3.021	1.382
	42	災害に強く安心して暮らせる県土	4.683	2.529	2.154
	43	生活基盤整備が進んだ生活環境	4.487	2.522	1.965
	44	社会資本の維持管理	4.337	2.702	1.634
	45	公共交通機関の維持・確保	4.444	2.659	1.785
	46	通信ネットワークの活用	4.039	3.155	0.884
平 均			4.327	2.789	1.537

〔用語の説明〕

重要度(平均) : 「重要」を5点、「やや重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要でない」を2点、「重要でない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

満足度(平均) : 「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

ニーズ度 : 重要度(平均)－満足度(平均)
(重要度が高く、住民の満足度が低い状態を(行政)ニーズが高いと読む)

居住地（広域振興圏）別集計結果 （問1、問2、問3、問4）

※問2-6は今回（平成25年）調査から追加した項目であること。

調査項目一覧

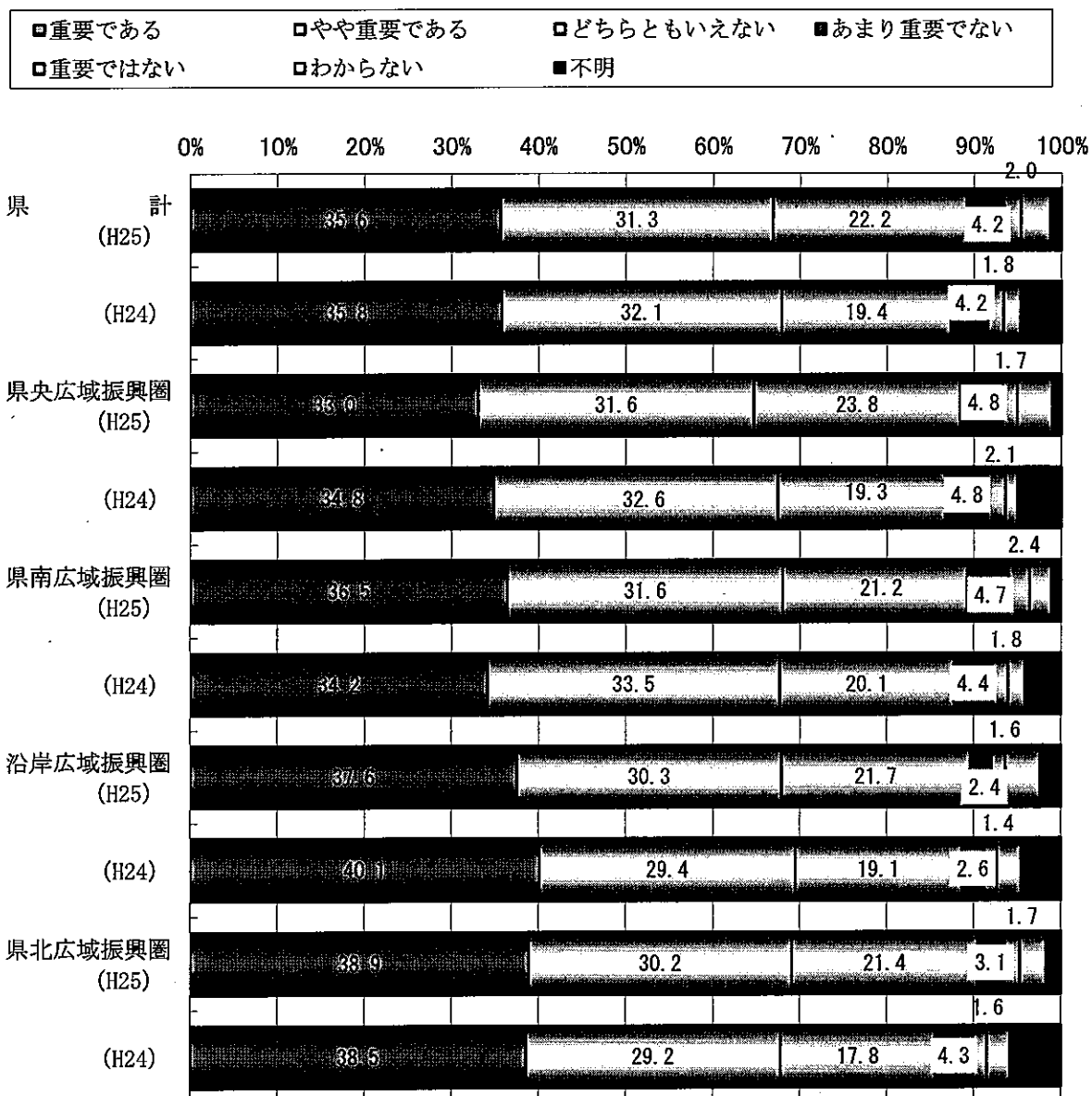
	頁
問1 今の生活全般について、どのように感じていますか。	16
問2 「あなたの重要度」と「あなたの満足度」についてお聞きします。	
①産業・雇用 ～「産業創造県いわて」の実現～	
問2-1 新しい工場や事業所ができ、県内経済が活性化していること。	20
問2-2 次の時代の地域の商業やサービス業、製造業などを担う人材が育っていること。	22
問2-3 地域の農林水産資源や技術を生かした加工食品や木製品が開発され、販売されていること。	24
問2-4 魅力ある観光地づくりに、地域で取り組まれていること。	26
問2-5 身近な商店街が、住民に利用され、にぎわっていること。	28
問2-6 中小企業が、人材や技術力、商品、サービスなどを強化して経営力の向上を図り、更に成長・発展していること。	30
問2-7 海外における県産品の販路の拡大が図られること。	32
問2-8 県内に職を求め人が希望どおりに就職できること。	34
②農林水産業 ～「食と緑の創造県いわて」の実現～	
問2-9 地域の農林水産業の担い手が確保されていること。	36
問2-10 消費者ニーズに対応した農林水産物の産地が形成されること。	38
問2-11 本県農林水産物がブランドとして確立され、販路が拡大していること。	40
問2-12 都市との交流などにより活力ある農山村が形成されていること。	42
問2-13 地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること。	44
③医療・子育て・福祉 ～「共に生きるいわて」の実現～	
問2-14 必要な医療を適切に受けられること。	46
問2-15 病気の予防や健康づくりを行うために、相談、指導を受けられること。	48
問2-16 安心して子どもを生み育てられ、子育てがしやすい環境であること。	50
問2-17 高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域社会であること。	52
④安全・安心 ～「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現～	
問2-18 地域の防災体制が、住民の協力により整っていること。	54
問2-19 犯罪に対する不安が少ない地域社会であること。	56
問2-20 交通事故が少ない社会であること。	58
問2-21 悪質商法、架空請求、多重債務などの消費者トラブルについて、適切な相談や支援を受けられる社会であること。	60
問2-22 購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない社会であること。	62
問2-23 岩手に移り住む人や岩手を訪れる人が増え、地域に活力が生まれていること。	64
問2-24 だれもが市民活動に参加できる社会であること。	66
問2-25 地域全体が一体となって青少年の健全育成に取り組んでいること。	68
問2-26 女性も男性も社会のあらゆる分野に等しく参画し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されていること。	70
⑤教育・文化 ～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～	
問2-27 学校が、学力や体力の向上などの目標に向かって、家庭や地域と一緒に取り組んでいること。	72
問2-28 子どもたちの学力が向上する教育がされていること。	74
問2-29 子どもたちが、自分の良さを知り、人を思いやる心を持つなど、人間性豊かに育っていること。	76
問2-30 子どもたちが、スポーツや運動に取り組むことによって、体力の向上や心身の健康の保持が図られること。	78
問2-31 学校が、障がいのある子どもたちを含め、全ての子どもが共に学び共に育つ環境となっていること。	80
問2-32 学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境にあること。	82
問2-33 県内の大学などが、人材の育成や地域の企業との連携などにより、地域社会に貢献していること。	84
問2-34 郷土の歴史遺産や伝統文化に、誇りや愛着を持てるような取り組みがされていること。	86
問2-35 地域や学校などで文化芸術（芸術、祭り、行事など）の鑑賞や活動が活発に行われていること。	88
問2-36 外国人に対する理解が進み外国人も暮らしやすい地域社会であること。	90
問2-37 スポーツの国際大会や国内外の各種大会において本県選手が活躍していること。	92
⑥環境 ～「環境王国いわて」の実現～	
問2-38 地球温暖化防止のため、環境にやさしい再生可能エネルギーの利用や省エネルギーなど二酸化炭素等の排出量削減の取り組みが各地域で活発に行われていること。	94
問2-39 ふだんの暮らしに、ごみの減量化やリサイクル（資源ごみの分別など）が定着していること。	96
問2-40 大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動植物を大切にしながら生活していること。	98
⑦社会資本・公共交通・情報基盤 ～「いわてを支える基盤」の実現～	
問2-41 高速道路をはじめ、インターチェンジや新幹線駅、港湾、空港などの交通や物流の拠点に通じる道路が整備されていること。	100
問2-42 防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること。	102
問2-43 道路や下水道などの生活基盤の整備や歩道の段差解消等の地域のバリアフリー化などが進み、快適に暮らせる生活環境になっていること。	104
問2-44 道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること。	106
問2-45 鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。	108
問2-46 携帯電話やインターネットなどの情報通信ネットワークが暮らしや仕事に生かされていること。	110
問3 あなたの普段の行動についてお聞きします。	
問3-1 あなたは、大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っていますか。	112
問3-2 あなたは、普段から災害に備え、何らかの準備をしていますか。	112
問3-3 あなたとあなたの夫（妻）は、普段、どれくらい家事を行っていますか。	113
問3-4 あなたは、地球温暖化防止のため、普段どのような行動に努めていますか。	116
問3-5 あなたは、ごみの減量化などのため、普段どのような行動に努めていますか。	116
問4 「いわて県民計画」の推進に生かしていくために、お聞きします。	
問4-1 あなたは「人口」の社会減を減らすために、県が今後どのような政策を進めていくべきだと思いますか。	117
問4-2 (1) あなたは、岩手県が経済的な観点だけでなく様々な観点から総合的に見た場合、「ゆたかな」県であると思いますか。	118
問4-2 (2) どのような要素を満たす県が「ゆたかな」県であると思いますか。	118

問2-24 だれもが市民活動に参加できる社会であること。

(1) 重要度について

重要が7割弱(66.9%)

- 県計では、「重要である」が35.6%、「やや重要である」が31.3%となっており、重要(「重要」+「やや重要」)の割合が66.9%となっている。
- 広域振興圏別では、重要(「重要」+「やや重要」)の割合が最も高いのが県北の69.1%、最も低いのが県央の64.6%となっている。



問2-24 だれもが市民活動に参加できる社会であること。

(2) 満足度について

満足が不満を上回る

- 県計では、満足(「満足」+「やや満足」)の割合が26.2%となっており、不満(「不満」+「やや不満」)の割合14.8%を上回っている。
- 広域振興圏別では、満足(「満足」+「やや満足」)の割合が最も高いのが県南の27.6%、最も低いのが沿岸の23.3%となっている。

